



3M

DI-NOC™

Architectural Finishes

3M™ ダイノック™ フィルム

Case Study | 2024

150年の記憶とともに新たな魅力を発信

大阪駅直結の大規模複合施設
梅田の新たなランドマークタワー

JPタワー大阪 | KITTE大阪



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2024

JPタワー大阪 | KITTE大阪

大阪駅直結150年の記憶を継承し 新たな街の魅力を発信する複合ビル — 日建設計によるJPタワー大阪のデザイン —

2024年春、大阪駅西地区にJPタワー大阪が竣工した。

JPタワー大阪は、オフィス、商業施設、劇場、ホテルを併せ持つ大型の複合施設だ。

このタワーが建設されたのは、1874年開業の初代大阪駅の跡地であり、1939年からは旧大阪中央郵便局が建っていたところである。メインのアトリウムでは旧大阪中央郵便局舎の一部が保存・移設されている。

設計は株式会社日建設計。3M™ ダイノック™ フィルムと3M™ ファサラ™ ガラスフィルムは空間ごとに表情を変える内装に調和し、彩りをそえている。



右から

株式会社日建設計
設計グループダイレクター
久下 武彦 氏
設計グループアソシエイト
石井 太志 氏
設計グループアソシエイト
小畑 香氏



1階共有部通路壁面 AE-1955

1階はオフィス、商業施設、劇場など様々な施設を目指す人々が交わるフロア。各空間のゆるやかなつながりと調和が意図されている。床石の質感と馴染み、主張しすぎない抽象柄のAE-1955が採用された。

「ダイノック™ フィルムは派手に使うだけが取り柄ではない。あえて、存在感を消す、でも空間をつなぎ合わせるような役目、デザイン性も果たせる素材。」

(久下 武彦 氏 / 日建設計)

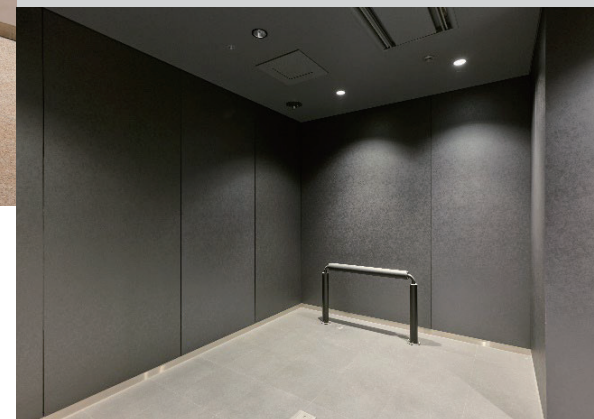
外観

2階テナント部分には、テナント入居前の目隠しとして、ファサラ™ ガラスフィルム ミルキーミルキーダークグレー (SH2MAMMD) が採用された。

トーンを落としたダークグレーの色調がガラスの質感に調和し、建物内で使用されている乳白色のフィルムとは異なる自然なかたちで目隠しを実現している。
(写真は2024年6月撮影時のものです。現在の外観とは異なる場合があります。)

B1階喫煙ルーム壁面 ME-2284AR

シックで落ち着いた雰囲気喫煙ルーム。ハードユースでメンテナンス性が重視される空間のため、壁面はキズ防止フィルム (ARシリーズ) のメタリック調 ME-2284ARで仕上げられている。



「ダイノック™ フィルムは色や質感の自由度が上がっている。耐久性だけでなく、デザインで選べる時代になった。」

久下 武彦 氏, 株式会社日建設計



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2024

JPタワー大阪 | KITTE大阪

さまざまなテナントを受け入れる モノトーンの世界観

採用箇所 | エレベーターホール壁面、通路壁面、トイレ壁面

オフィス基準階の内装デザイン

3M™ ダイノック™ フィルムの木目調のデザインで表現

オープン後もテナントの入れ替わりが想定されるオフィスフロアでは、入退去時の作業による傷付き防止の効果や日々のメンテナンス性の高さが決め手となり、基準階の壁面に3M™ ダイノック™ フィルムが採用された。

色彩を抑えたデザインでありながらも、抑揚が感じられるグレーの木目調の特注品が採用され、それぞれの企業のコーポレートカラーを邪魔することなく調和できるモノトーン的空間が広がっている。

「採用にあたっては、他の仕上げ材とも比較検討したが、事業主向けに行った汚れの拭き取り性能試験の結果などが評価され、決め手となった。」

(石井 太志 氏/日建設計)



オフィス基準階 トイレ付近通路壁面 特注品



オフィス基準階 トイレ壁面 PS-1187、特注品



オフィス基準階 エレベーターホール壁面 特注品
照明によって浮かび上がる木目柄が上質な空間を生み出している。

3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2024

JPタワー大阪 | KITTE大阪

社交倶楽部をイメージしたレトロで重厚感のあるラウンジ空間

採用箇所 | 柱、自動ドア、曲面天井の目地部分



オフィスラウンジの内装デザイン

8階にはテナント向けに大阪の社交倶楽部をイメージしたラウンジが設けられている。ラウンジは打ち合わせなどで活用できるほか、イベントなどでの貸し切り利用ができるなど、ワーカーたちに憩いや交流の場を提供する空間となっている。

室内の柱や自動扉、曲面天井の目地部分にメタル調の3M™ ダイノック™ フィルムが採用され、華やかで上質な空間を演出している。まるで本物の金属のような光沢感や質感を表現したダイノック™ フィルムは、空間の高級感を損なうことなく各所で採用されている。

また部屋の片側に大きく広がる窓ガラスには、遮熱フィルムの3M™ ウィンドウフィルム NANO40Sが使用され、カーテンやブラインドで景色が遮られることなく、快適な室内環境を維持することに貢献している。

ラウンジ柱 ME-1997

構造上、あらわしとなる柱は金属パネルのような上質さを表現するためにメタル調のME-1997で仕上げられた。



ラウンジ曲面天井目地部分 ME-1997

往年のサロンをイメージさせる、柔らかな曲面天井。レトロな雰囲気がありながらも計算された目地割りと目地幅によって、現代的なシャープさを感じさせる。照度を抑えた空間で、目地部分には真鍮のような質感を持つME-1977がアクセントとして効果的に配されている。



ラウンジ自動ドア ME-486

落ち着きと華やかさを見事に表現している自動扉。「通常の空間では派手になりがちなメタル調のME-486だが、重厚で照明も落としたラウンジ空間では、思いのほかしっくりきた。」(石井 太志 氏/日建設計)

「ダイノック™ フィルムの
メタリックシリーズは本当に重宝する。
質感は申し分ない。
今回の物件でもそれを実感した。」



石井 太志 氏, 株式会社日建設計



ラウンジ曲面天井目地部分ME-1997
ラウンジ自動ドアME-486



フロアコンセプトに呼応したトイレ 楽しさや落ち着きのある空間体験

採用箇所 | 各階トイレ壁面

商業施設「KITTE大阪」の内装デザイン

「KITTE大阪」は、日本各地の魅力を再発見できる施設として設計され、地下1階から6階までのフロアには様々な飲食店やアンテナショップが並ぶ。多くの人々が訪れる商業フロアのトイレには、フロアごとのテーマに合わせたデザインが施され、その美しい外観をより長く維持するために3M™ ダイノック™ フィルムのARシリーズ（キズ防止フィルム）が多く採用された。傷付きにくさという機能性を持たせながらも、デザインの幅を狭めることなく、各階ごとに異なる空間の表情が表現できるのは豊富なラインアップを誇るダイノック™ フィルムならではである。

5階トイレ洗面カウンター
フロントパネル
ME-1781AR

5階レストランフロアのトイレ。
高級店の雰囲気そのままに
タイルなどで落ち着きのある
空間に仕上がっている。ニュア
ンスのある中間色の空間に
ME-1781ARの色味と質感が
ほどよく溶け込んでいる。

B1階トイレ洗面カウンター
フロントパネル
ME-2284AR

B1階の横丁ゾーンにあるトイレ。
横丁らしい楽しい雰囲気を取り込
んだような壁面グラフィックにシッ
クなメタル調のME-2284ARがコ
ーディネートされ、清潔感が醸し出
されている。



B1階男性小便器壁面ME-2284AR(壁面下部) PS-1187(壁面上部)

「トイレは特に傷付きにくい素材を
重視する。その中で色柄を決めていく。
ダイノック™ フィルム ARシリーズは
その両方を兼ね備えている。」



小畑 香 氏, 株式会社日建設計



3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2024

JPタワー大阪 | KITTE大阪

ガラスの透明感が叶える 開放感に満ちた大空間

採用箇所 | ロビーの階段ガラス手すりなど

劇場の内装デザイン

「SkyシアターMBS」は、JPタワー大阪の6階に位置し、約1,300席を設ける劇場だ。

ロビーに足を踏み入ると清々しい開放感を与える吹き抜け空間が広がり、大きく曲がりながら2階へと続く大階段が姿を現す。

ダイナミックな空間演出を遮ることなく、段下からの視線に配慮するため、階段手すりには3M™ ファサラ™ ガラスフィルムが採用された。

また、JR大阪駅を眺望できる大きなガラスウォールには3M™ ウインドウフィルム NANO80Sが採用され、窓際の温度上昇を抑えて心地よい空間づくりに役立っている。

「白基調のインテリアとの親和性を保ち、程よい透明感で視線を遮ることのできる品番を選んだ。」(石井 太志 氏/日建設計)



階段から続く上階部分のガラス手すりには、ファサラ™ ガラスフィルム ミスト PR (SH2FGMI-PR) が採用されている。白基調のインテリアとガラスの透明感を自然につなげている。

ロビー階段ガラス手すり SH2FGMI-PR

ロビーの階段が外壁ガラスとともに空間の透明感を印象的なものになっている。ファサラ™ ガラスフィルム ミスト PR (SH2FGMI-PR) を採用することで、階下からの視線を遮りながらも空間の透明感を最大限確保するようにデザインされている。

ガラスにフロスト加工を施したような美しいグラデーションが特徴的なミストPR (SH2FGMI-PR)。フィルム表面の微細で半透明な凹凸が光の拡散を生み、フィルムの奥の空間をやわらかくぼかすことができる。





「ダイノック™ フィルムの良さは目地をきれいにとれば
建具や異なる下地であっても
壁を均一にきれいに仕上げられるところ。
そこはすごく 便利な素材だと思います。」

石井 太志 氏, 株式会社日建設計

3M™ DI-NOC™ Architectural Finishes

Case Study 2024

JPタワー大阪 | KITTE大阪

CASE STUDY SUMMARY

Challenge:

内装材には複合ビルにふさわしい耐久性と色柄の豊富さが求められた。

Benefits:

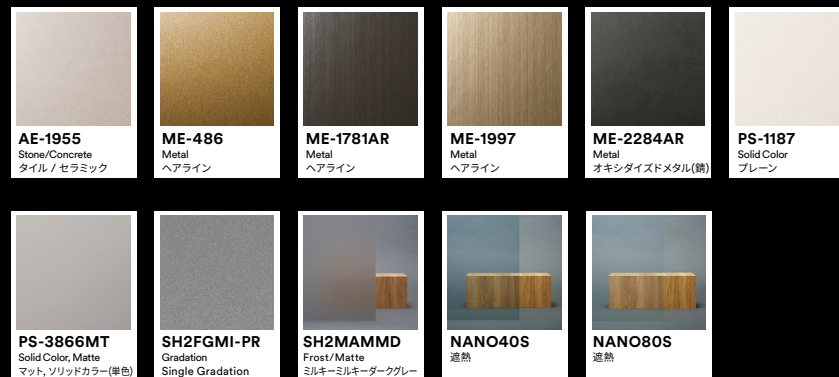
3M™ ダイノック™ フィルムのメタル、木目、抽象柄などの幅広いデザインと質感が空間ごとのコンセプトに合致し採用となった。多くの人が利用する施設で傷付きにくく、メンテナンス性の高いARシリーズ(キズ防止フィルム)も採用の決め手となった。

Product Selection:

3M™ ダイノック™ フィルム

3M™ ファサラ™ ガラスフィルム

3M™ ウインドウフィルム



3M, DI-NOC, ダイノック, ファサラは、3M社の商標です。




スリーエム ジャパン株式会社
<http://go.3m.com/dinoc/>

© 3M 2024. All Rights Reserved.

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-012-123**

9:00-12:00 13:00-17:00/月~金(土日祝年末年始は除く)